

TR-IT-0009

音声言語データベースにおける
日本語形態素解析マニュアル
Users Manual for Japanese Morphological analysis
in the ATR Spoken Language Database

浦谷 則好 田代 敏久 山田 久子* 松本 香*
Noriyoshi URATANI Toshihisa TASHIRO Hisako YAMADA* Kaori MATSUMOTO*

1993.9

内容概要

ATR 音声翻訳通信研究所では音声と言語を一貫して扱う音声言語データベースを構築することを予定している。本マニュアルはこのデータベース用の日本語形態素情報を付与する基準を示したものである。なお、基準は前身のATR自動翻訳電話研究所が作成したADD (ATR Dialogue Database) とできるだけ整合性を保持しつつも、音声認識や構文解析との相性を考慮したのものとなっている。

ATR 音声翻訳通信研究所
ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories

© (株)ATR 音声翻訳通信研究所 1993
© 1993 by ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories

* 株式会社 東洋情報システム
TOYO Information Systems

目次

1	名詞	1
1.1	固有名詞	1
1.2	サ変名詞	3
1.3	形容名詞	4
1.4	普通名詞	6
1.5	数詞	8
1.6	代名詞	9
1.7	人名	11
1.8	住所名	12
1.9	日時	13
2	動詞	14
2.1	本動詞	14
2.2	補助動詞	18
3	語尾	19
4	形容詞	21
5	副詞	23
6	連体詞	27
7	接続詞	28
8	感動詞	29
9	間投詞	30
10	助動詞	31
11	助詞	35
11.1	格助詞	35
11.2	準体助詞	36
11.3	係助詞	37
11.4	副助詞	38
11.5	並立助詞	39
11.6	接続助詞	40
11.7	終助詞	42
11.8	連体助詞	43
11.9	引用助詞	44
12	接頭辞	45
13	接尾辞	46
14	その他	47

15 コメント一覧表	48
16 助詞の整理	49
16.1 助詞整理の解説	49
16.2 助詞の洗いだし	49
17 助詞の接続表	62
18 活用表	64
18.1 動詞活用表	64
18.2 形容詞活用表	65
18.3 助動詞（文語）活用表	66
18.4 助動詞活用表	68

はじめに

本マニュアルは、ATR 音声翻訳通信研究所において構築する音声言語データベースに向けて作成された、日本語形態素データ作成作業者のためのマニュアルである。また、本マニュアルは、トップダウンに記述された日本語形態素の体系（参考文献 [1]）をデータ作成作業者レベルの視点から詳細化したものであるため、データ利用者のハンドブックとしても利用されたい。ここで採用している日本語形態素の認定基準は、参考文献 [1] に基づいており、ATR 自動翻訳電話研究所で構築された ADD (ATR Dialogue Database) と音声翻訳システム ASURA 用音声認識文法、構文解析文法の間が存在していたさまざまな差異（品詞認定基準、語分割、表記など）を極力解消し、音声言語統合処理の研究を円滑に進められることを目標としている。本マニュアルでは、データ作成上必要となる詳細な認定基準を実際の例を挙げて説明する。

解説

本文中の「●」は具体例を表している。また、「○」は例外を表している。本文中に「文頭」と表記してある場合、「感動詞」「間投詞」「記号」を除いた文の先頭と定義する。

例) 「えーと、だから昨日いけなかった」 → 「だから」が文頭の語となる。

1 名詞

認定基準

自立語。活用しない。格助詞「ガ」を付けて文の主語になる。

固有名詞、サ変名詞、形容名詞、普通名詞、数詞、代名詞、人名、住所名、日時から構成されている。

1.1 固有名詞

指示対象が1つだけの名詞。

例) 源氏物語、ATR音声翻訳通信研究所、キリスト教

1. 固有名詞とは、同じ種類に属する他のものから区別するために、そのものだけに付けた名前前で、「人名」「地名」「団体名」「役職名」「書名」「商品名」など、さまざまなものがある。また、世界中にさすものが一つしかなかったら、それは固有名詞である。(ただし、固有名詞だから世界中に一つしかない、とっているのではない。例えば「ヒルトンホテル」は世界中にいくつもある。)

- 「人名」鈴木、真弓、レオポルド・ブルーム
- 「地名」東京、アイルランド、ヨーロッパ
- 「役職名」データ通信部長、田中教授
- 「団体名」ATR、日本航空
- 「書名」日本語形態素解析マニュアル、フィネガンズ・ウェイク
- 「商品名」ネスカフェ、マッキントッシュ

上記のものうち、人名には「人名」、住所表示に使われるものには、「住所名」という品詞を与える。

2. 固有名詞は長単位分割を基本とする。

(まとめて一つの固有名詞になるものは長単位分割をする。) こまかく切るのは、住所の場合のみで、会社名、部課名、役職名がつかなくてある場合はそれぞれ「...名」の単位で切る。

年号はすべて固有名詞とする。

- 平成五年 → 固有名詞

*注

普通名詞と固有名詞の区別は大変難しい。固有名詞の判断基準は「唯一性」であるが、商品名のように指示対象が複数個存在するものもあって、唯一性そのものをどう考えるかも問題である。そこで、判断に迷うものは長単位分割して『普通名詞』とする。

- 温州みかん → 普名
- 夕張メロン → 普名

- 一度は オリンピック に出場したい → 普名
- バルセロナの オリンピック は盛大だった → 普名
- バルセロナオリンピック は盛大だった → 固名

3. パンフレット名、ツアー名について

長単位で固有名詞とする。

講演名、催し物名、機種名も同様に長単位で固有名詞とする。

- 「ヨーロッパベストルート十二」 → 固名詞

1.2 サ変名詞

1. 「する」をつけてサ変動詞となる名詞は、文中のどこに出現しても動作性を保っているかぎり『サ変名詞』とする。また、大辞林の見出しにあるものは、一語でサ変名詞とする。分割すると意味をなさなくなる、あるいは意味が変わるものは一語とする。

- 私は自動 翻訳 電話 の 研究 に 従事 しています。
サ名 サ名 サ名 サ名
- 事務局から 催促 の 電話 が来ました。
サ名 サ名

2. 動作性を失って具体的な物を指す時は『普通名詞』とする。

- 電話 が故障して連絡がつきません。
普名
- ファックス の使い方がわかりません。
普名

3. 動作性を保っているかどうか迷う場合は『サ変名詞』とする。

- 電話 でお知らせします。
サ名

* 従来との相違

従来は「する」の前に助詞がくる時はすべて『普通名詞』としていたが、これ以後、動作性の有無で区別する。

- 電話をする → 電話 / を / する
サ名 格助 本動

4. 「する」がついてもサ変名詞にならないもの

「する」を付けて前の名詞に動作を含まない時は、「名詞+本動詞」にする。

- かなりの 値段 したんです。 → 値段 / し / た
普名 本動 助動
(値段に動作を含まない)
- 駅まで 一緒 します。 → 一緒 / し / ま / す
普名 本動 助動 語尾

1.3 形容名詞

事物の性質、状態を表す名詞。「～な [名詞]」と置き換えて意味が通じると形容名詞となる。形容名詞は助動詞「だ」「です」「たる」を伴う。文中のどこに出現しても、人・事物の性質・状態を表すかぎりは『形容名詞』とする。

- とても 綺麗な人ですね。
形名
- 努力が 無駄になる。
形名
- 安全地帯 → 安全 / 地帯
形名 普名

性質・状態を表すものではなく、抽象的なものを指す場合は『普通名詞』とする。格助詞の「が」「を」や、連体助詞の「の」が続く場合および、連体修飾される場合が多い。

- 役所のすることには 無駄が多い。
普名
- それは 緊急を要する事柄です。
普名
- 幸福の黄色いハンカチ。
普名
- 家族に知らせる 必要はありません。
普名

性質・状態を表すか、抽象的なものを表すか、迷うような場合は『形容名詞』とする。

- 子供の成長が 楽しみになる。
形名

* 注

『大辞林』にエントリーされていない形容名詞は、コメントを入れる

1. 「的」のつくもの

「的」がつくものは、以下のように切り方を統一することにする。

- 時間的に → 時間的 / に
形名 助動「だ」連用
- 自動的に → 自動的 / に
形名 助動「だ」連用
- 総括的な → 総括的 / な
形名 助動「だ」連体

- 時間的経緯 → 時間的 / 経緯
形名 普名

2. タルト型形容名詞

文中に形容名詞+助動詞（たる、たり、と）の形で現れるもの。これは文語の名残なので次のように解析する。

- 堂々たる
→ 堂々 どうどう 堂堂 形名
たる たる と [文] 助動 形容動詞 連体
- 堂々と
→ 堂々 どうどう 堂堂 形名
と と と [文] 助動 形容動詞 連用

3. 接頭語の付いている形容名詞

接頭語と名詞を切って、「～な [名詞]」と置き換えて意味が通じたら切る。通じない時は、一つで形容名詞。

- 不都合な時 → 不都合 / な / 時
形名 助動 普名
- 不都合がある → 不 / 都合 / が / あ / る
接頭 普名 格助 本動 語尾
- 不明瞭な → 不 / 明瞭 / な
接頭 形名 助動
- 非公式な → 非 / 公式 / な
接頭 形名 助動

4. 副詞か形容名詞か迷うもの

「～な [名詞]」の形のあるものは副詞とはしない。

- 最悪二人で行こうかな。
形名
- そんなには高くありません。
副詞
- 絶対に行こうと思っている。
副詞

1.4 普通名詞

広義には、同一種類の事物に通じて用いられる名称。狭義には、そのうち「サ変名詞」「形容名詞」を除いたもの。ここでは狭義の意味で用いる。

固有名詞及びサ変名詞は長単位分割することを基本とするが、普通名詞の場合は（複合語は）短単位分割することを基本とする。その際の認定基準は『大辞林』の見出し語とする。（派生語は採用しない）

- 国際会議 → 国際 / 会議
 普名 普名
- 中華料理 → 中華 / 料理
 固名 普名
- 日本人 → 日本 / 人
 固名 接尾
- 日本語 → 日本 / 語
 固名 接尾
- 発展途上国 → 発展 / 途上 / 国
 サ変 普名 普名
- 宅急便 → 固有名詞

*注

複合名詞に含まれるサ変名詞は、従来『普通名詞』としていたが、動作性を保っているかぎり『サ変名詞』とする。

- 参加申込書 → 参加 / 申込 / 書
 サ名 サ名 接尾

1. 学科名について

学科名は抽象的であるし、どこの学校も同じような学科があるので固有名詞にとりづらい。よって、長単位で普通名詞とする。

- 英文科 → 普名

2. 動物名、植物名について

切ると意味が通じなくなるので、大辞林にエントリーが無くても一つで名詞にする。

- 宿根霞草 → 普名

3. 大辞林の切り方が不統一な語について

「北半球」「南半球」、「夏休み」「冬休み」など対義語であるにもかかわらず、大辞林では切り方が不統一である。名詞の切り方は辞書を基準とするが、固有名詞・普通名詞の切り方の原則に従うこととし『大辞林』の見出し語にある方にそろえる。

- 北半球 → 普名詞
- 南半球 → 普名詞
- 夏休み → 普名詞
- 冬休み → 普名詞

4. 英語の扱いについて

英語のフレーズが出てきた場合は、長単位で普通名詞とする。

- コールフォーペーパー → 普名

5. 転成名詞について

「が」「を」「の」「は」などの格助詞類の助詞を伴う場合が多い。「支払い」「考え」「持ち」など動詞の連用形の名詞的な使われ方について、名詞と採るか、動詞と採るかは、文脈で判断する。

- 催し物についてのお 問い合わせ ですが。
普名
(「…についての」によって連体修飾されている)
- いくら 振込み をしますか。
普名
- それがあなたの お考え であれば → お / 考え
接頭 / 普名
- 参加料の お支払い でございますか。 → お / 支払い
接頭 / サ名
- いくら お支払い でございますか → お / 支払 / い
接頭 / 本動・五段・語幹 / 語尾・五段・連用
(連用修飾されている場合)

6. 「ある」「ない」の前

「ある」「ない」の前にくる本動詞の連用形は普通名詞とする。

- 途中から参加しても 差し支え ありません。
普名
- お 変わり なくお過ごし下さい。
普名
- 食べ過ぎない ようにきをつける。 → 食べすぎ / な / い
本動 / 助動 / 語尾

7. 副詞と間違えやすいもの

時の概念を現すものは、名詞とする。

- 現在、一名です。
普名
- 当初、予定していた人数は二名です。
普名

1.5 数詞

数や量または順序を表す名詞。

1. 短単位分割を原則とする。

- 三万五千円 → 三 / 万 / 五 / 千 / 円
数詞 接尾 数詞 接尾 接尾
- 三七一四 → 三 / 七 / 一 / 四
数詞 数詞 数詞 数詞

2. 数字としての意味が希薄になっているものは普通名詞とする。

- 七五三 → 普名詞
- 九九 → 普名詞

3. 数字の読み方

原文に読みが入っていない場合は、表の読みを参考にする。

	零	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
1 漢語	れい	いち	に	さん	し	ご	ろく	しち	はち	きゅう	じゅう
2 和語		ひ	ふ	み	よ(ん)	いつ	む	なな	や	この	と(お)
3 欧米語	ゼロ										

4. 以下のような場合に注意する（これらは数量表現ではない）

- ひとつ よろしくお願ひします。
副詞
- 間違いを ゼロ にする
普名
- そういふのも 一つ の手です
普名
- ボタン 一つ で操作できる
普名

5. 部屋番号の読みについて

三桁以上の部屋番号は棒読みとする。

- 五/三/六 号室
ご/に/ろく

1.6 代名詞

名称を直接言わずに、「指示」を行う語。話し手・書き手および聞き手・読み手の存在する場によって、指示する対象が異なる。

正規表現は原則としてひらがな。

例外：皆、私、君

例) 私、君、自分、これ、それ、あれ、どれ、ここ、そこ、あそこ、どこ、こちら、そちら、あちら、どちら

- お宅の商品開発された
代名

○ 田中さんのお宅は広い
お宅 / 宅
接頭 / 普名

*注

「いつ」「いくら」は、助詞を伴って名詞的に使われることもあれば、助詞を伴わずに単独で副詞的に使われることもある。

- いつがよろしいですか。
代名
- いつおいでになりますか。
副詞
- いくらで売ってくれますか。
代名
- いくらかかりましたか。
副詞

従来は「いつ」は「代名詞」のみ、「いくら」は副詞のみとなっていた。しかし、構文解析用文法を考慮して、これらは多品詞語とみなす。

1. 「これ」「それ」「あれ」「どれ」のつく語について

大辞林にエントリーされている語は切らずに一語とする。

その中で、格助詞類の助詞を伴っている場合は名詞、それ以外は副詞とする。

大辞林にエントリーされていない語は切る。

- あれほどの人間はいない。
普名
- あれほど言ったのに、聞いてくれない。
副詞
- どれくらいの時間が掛かりますか。 → どれ / くらい
代名 / 副助

● どれくらい 食べますか。 → どれ / くらい
代名 副助

1.7 人名

人の名前。姓・名からなる人名は、姓と名に短単位分割する。

● 鈴木真弓 → 鈴木 / 真弓
 人名 人名

● ジェイムズ ジョイス → ジェイムズ / ジョイス
 人名 人名

*注

「人名」という品詞は指示対象が人である場合にのみ使われるので例えば、複合固有名詞の中に人名が含まれていても、「人名」とはしない。

● 山本既舎 → 固有名詞

1.8 住所名

住所表示に使われる地名。短単位分割を基準とし、「都」「府」「県」「市」「区」などは、接尾辞とする。

- 大阪市東区一丁目二番地

→ 大阪 市 東 区 一 丁目 二 番地
住所名 接尾 住所名 接尾 数詞 接尾 数詞 接尾

- 大阪市東区一の二

→ 大阪 市 東 区 一 の 二
住所名 接尾 住所名 接尾 数詞 連体助 数詞

* 外国の住所も、日本の住所の場合に準ずる。

*注

地名であっても住所表示に使われない場合は、固有名詞とする。

- 次の会議は 東京 で行われます。
固名
- 東北 地方は雨でしょう。
固名
- 石川国体 で優勝した。
固名
- 日本海 でミサイル実験が行われた。
固名

1.9 日時

月・日、及び、時刻を表すもの。

- 四月（しがつ） → 四月
日時
- 二十日（はつか） → 二十日
日時
- 今は五時三十分です → 五時 / 三十分
日時 日時
- 四月（よつき）目 → 四 / 月
数詞 接尾
- 二十日（にじゅうにち）目 → 二 / 十 / 日
数詞 接尾 接尾
- 五時間三十分かかる → 五 / 時間 / 三 / 十 / 分
数詞 接尾 数詞 接尾 接尾

2 動詞

認定基準

自立語。活用する。言い切る形は五十音図のウ段の音で終る。述語になる。事物の動作、作用、存在を表す。

本動詞、補助動詞から構成されている。

2.1 本動詞

1. 原則として語幹と活用語尾に分割する。ただし、不変化部分を語幹とみなすことを基本とする。上一段・下一段・変則活用の区別は廃して、単に「一段動詞」とする。

- 送る → 送 / る
本動・五段・語幹 語尾
- 見る → 見 / る
本動・一段・語幹 語尾
- 教える → 教え / る
本動・一段・語幹 語尾

2. 一段動詞について

一段動詞の未然形・連用形には活用語尾がなく、語幹と同じ形が用いられる。本来は活用語尾をゼロ記号(ε)とすべきだろうが(教え/ε/た)の「ε」を設定するのは現在の形態素解析では困難なので、この部分を省く。

- 教えた → 教え / た
本動・一段・語幹 助動

3. カ変動詞・サ変動詞について

(a) カ変動詞・サ変動詞「する」は語幹がなく、活用形で扱う

- 来ない → 来 / な / い
本動・カ変・未然 助動 語尾
- 来ます → 来 / ま / す
本動詞・カ変・連用 助動詞 語尾
- 来る → 来る
本動・カ変・終止
- 来る時 → 来る / 時
本動・カ変・連体 普名
- 来れば → 来れ / ば
本動・カ変・仮定 接助
- 来い → 来い
本動・カ変・命令
- しない → し / な / い
本動・サ変・未然 助動 語尾

- します → し / ま / す
本動・サ変・連用 助動 語尾
- する → する
本動・サ変・終止
- する → する
本動・サ変・連体
- すれば → すれ / ば
本動・サ変・假定 接助
- せよ → せよ
本動・サ変・命令
- しろ → しろ
本動・サ変・命令

(b) 語幹と語尾を分割するサ変動詞について

- 対する → 対 / する
本動・サ変・語幹 語尾・サ変・終止
- 発する → 発 / する
本動・サ変・語幹 語尾・サ変・終止

4. 慣用表現について

慣用表現は長単位で一語とする。ここで慣用表現とは、動詞が本来の実質的な意味を失って、名詞の表す行為・過程・状態・現象などのなんらかの側面を特徴づけているにすぎないような表現を言う。全体の意味を個々の語から構成できないものである。

- 腹が立つ → 腹が立 / っ
本動・五段・語幹 語尾・五段・終止
- 目をかける → 目をかけ / る
本動・一段・語幹 語尾・一段・終止
- 手に入れる → 手に入れ / る
本動・一段・語幹 語尾・一段・終止
- ご覧になる → ご覧にな / る
本動・五段・語幹 語尾・五段・終止

5. 慣用表現とまぎらわしい例

「する」は実質的な意味が希薄な動詞であるが、原則として慣用表現とは取らない。

- 楽しみにする → 楽しみ / に / する
- 気にする → 気 / に / する

6. 「…に行く」も同様に慣用表現とは取らない。「…に行く」の…が大辞林にエントリーされていれば名詞、なければ動詞、連用形とする。

- 遊びに行く → 遊び / に / 行 / く
普名 格助 本動 語尾

- 食べに行く → 食べ / に / 行 / く
本動 格助 本動 語尾

*注

慣用表現の取り方は人によって様々である。そこで、以下のテストをして慣用表現か否かを判断する。

- (a) 名詞と動詞の間に他の語句が入りにくいものは慣用表現。
腹が立つ：×腹が猛烈に立つ → 慣用表現
煙が立つ：○煙がもうもうと立つ → 慣用表現ではない
- (b) 名詞が自由に連体修飾を受ける事ができないものは慣用表現
目をかける：×優しい目をかける → 慣用表現
電話を掛ける：○急ぎの電話を掛ける → 慣用表現ではない
- (c) 名詞と動詞をいれかえて連体修飾の構造にできないものは慣用表現
手に入れる：×食べ物を入れた手 → 慣用表現
箱に入れる：○食べ物を入れた箱 → 慣用表現ではない

7. 不規則な活用

下にあげた動詞（なさる、いらっしゃる、おっしゃる、くださる、ござる、くれる、ごらん、おいで、ちょうだい）はいずれも不規則な活用をするので、活用の種類は「特殊」とする。

活用型	語例	活用	大辞林の扱い
特殊	なさ／る	なさ／い (連用と命令)	五段
特殊	いらっしゃ／る	いらっしゃ／い (連用と命令)	五段
特殊	おっしゃ／る	おっしゃ／い (連用と命令)	五段
特殊	くださ／る	くださ／い (連用と命令)	特殊
特殊	ございま／す	ございま／す	特殊
特殊	くれ／る	くれ (命令)	下一

- こちらに いらっしゃい
→ いらっしゃ いらっしゃ いらっしゃ 本動・特殊・語幹
い い る 語尾・特殊・命令
- こちらに いらした方 → いら いら いら 本動・五段・語幹
し し す 語尾・五段・連用
- 予定になって らしたら → ら ら いら 補動・五段・語幹
し し す 語尾・五段・連用

8. 接頭辞との結合が強い語句について

- あっちを ごらん → ごらん ごらん ご覧
本動・特殊・語幹

- テレビをつけてごらん → ごらん ごらん ごらん
補動・特殊・語幹
- 買っておいで → おいで おいで おいで
補動・一段・語幹 (基本形「おいでる」)
- 走っておいき → おい おい おい 補動・五段・語幹
き き く 語尾・五段・連用

* 解説

「おいき」は『大辞林』の見出し語にはない。しかし、「走っておいき」は「走って行け」の尊敬表現であり、この「行け」は補助動詞であるので「お行き」も補助動詞とする。

9. 「ちょうだい」について
「ください」と同じ意味と考える。

- 起きてちょうだい → ちょうだい ちょうだい ちょうだい
補動・特殊・語幹

10. 複合動詞について

複合動詞 (v 1 + v 2) がでてきた時には、

1. 大辞林に見出し語でエントリーされていれば一語で本動詞
2. エントリーされていないときは本動詞か補助動詞か判断するという手順を踏む。

2.2 補助動詞

動詞本来の意味が薄れ、他の動詞に付いて付属的な意味を表す動詞。
 正規表現は原則としてひらがな。

例外：願う、願える、申し上げる

1. 補助動詞の環境

- (a) 「動詞+て」「助動詞+て」に続くもの。
 動詞の連用形に付いて、意味を添える物が多い
 - 冷蔵庫にビールを入れてお／く
- (b) 動詞の連用形に続いて意味を添えるもの。
 - 本を読み はじめ／る
- (c) 否定の助動詞などを伴って代動詞として用いられる。
 - 考えも しない
 この場合、動詞以外に、サ変名詞にも後続しうる。
 - 謝罪も しない
- (d) その他様々な形で敬語として用いられるものがある。
 - お書きに な／る
 - お書き なさ／る

2. 本動詞と同様、原則として語幹と活用語尾に分割する。

- 載っている → ^い補動・一段・語幹 / ^る語尾・一段・終止
- 送ってくださ／い → ^{くださ}補動・特殊・語幹 / ^い語尾・特殊・命令
- 読み はじめた → ^{はじめ}補動・一段・語幹 / ^た助動
- 考えも しない → ^し補動・サ名・未然 / ^な助動 / ^い語尾
- お書きに なる → ^な補動・五段・語幹 / ^る語尾・五段・終止

*注

会話文で、語幹が省略されて「…ている」→「…てる」に、「…ておく」→「…とく」となる場合。融合形に関しては正規表現で正しい形に直す。

- 出てるんです → ^出本動 / ^て接助 / ^る語尾 / ^ん準助
- 送っといて → ^送本動 / ^っ語尾 / ^と接助 / ^い語尾 / ^て接助

3 語尾

認定基準

付属語。活用する。正規表現は五十音図のウ段の音で終る。本動詞、補助動詞、形容詞、助動詞などの活用語の変化する部分。

1. 本動詞の語尾

活用の種類は語幹部分と同じ。一段動詞の未然形と連用形の語尾は無い。本来は活用語尾をゼロ記号(ε)とすべきだろうが、形態素付与では困難なので、省くことにする。

- 送る → 送 / る
本動・五段・語幹 / 語尾・五段・終止
- 見る → 見 / る
本動・一段・語幹 / 語尾・一段・終止
- 教えた → 教え / た
本動・一段・語幹 / 助動

2. カ変動詞・サ変動詞「する」は不変化部分が無いので、語幹と語尾の区別をしない。よって、語尾が無い。

- 来ない → 来 / な / い
本動・カ変・未然 / 助動 / 語尾
- 来ます → 来 / ま / す
本動・カ変・連用 / 助動 / 語尾
- 来る → 来る
本動・カ変・終止
- する → する
本動・サ変・連体
- すれば → すれ / ば
本動・サ変・假定 / 接助
- せよ → せよ
本動・サ変・命令
- しろ → しろ
本動・サ変・命令

3. 補助動詞の語尾

本動詞の語尾の原則と同じ。

- 載っている → い / る
補動・一段・語幹 / 語尾・一段・終止
- 送ってください → くださ / い
補動・特殊・語幹 / 語尾・特殊・命令
- 読みはじめた → はじめ / た
補動・一段・語幹 / 助動

4. 形容詞の語尾

- 美しい → 美し
形容詞・形容詞・語幹 / い
語尾・形容詞・終止
- 楽しく → 楽し
形容詞・形容詞・語幹 / く
語尾・形容詞・連用

5. 助動詞の語尾

活用の種類は語幹と同じ。

- 考えもしない → な
助動・形容詞・語幹 / い
語尾・形容詞・終止

4 形容詞

認定基準

自立語。活用する。言い切る形は五十音図のイ段の音で終る。述語になる。事物の性質や状態を表す。活用の種類は「形容詞」。

1. 本動詞と同様、原則として語幹と活用語尾に分割する。

- 新しい →

新し	/	い
形容・形容・語幹		語尾・形容・終止
- 良く →

良	/	く
形容・形容・語幹		語尾・形容・連用

2. 形容詞っぽいものについて

- わかり やす / い - 接尾辞・形容詞型
- わかり にく / い - 接尾辞・形容詞型
- わから な / い - 助動詞・形容詞型
- うまく な / い - 助動詞・形容詞型
- わかって な / い - 助動詞・形容詞型
- わかって ほし / い - 補助動詞・形容詞型
- ねこで な / い - 助動詞・形容詞型

3. 不規則な活用（形容詞の語幹形）

形容詞「よい」「ない」には語幹が二つある。すなわち、「よ／よさ」「な／なさ」。このうち「よさ」「なさ」は、ある種の助動詞（そうだ、そうです）がうしろにつくときに見られる形である。

活用の種類は「特殊」となる。

- 京都観光が よさ そうですね。 →

よさ	/	そうで	/	す
形容・特殊・語幹		助動・語幹		語尾
- あなたには彼女の よさ が分かっていない。 →

よ	/	さ
形容・形容・語幹		接尾

4. 形容詞派生の名詞について

- 大 忙し という状況です
名詞
- 公園の 近く に駅がある
名詞
- 気温は14度 近く あります。 →

近	ちか	近	形容詞・形容・語幹
く	く	い	語尾・形容・連用

5. 連用形に「ございます」がつく時
う音便になる。

- よろしゅう ございます → よろしゅ よろしゅ よろし 形容詞・形容・語幹
う う い 語尾・形容・連用・う音

6. 長単位の形容詞について

従来は切っていたが、大辞林の見出し語にエントリーがあるものは、一語で形容詞とする。

- わかりやす / い 説明ですね → わかりやす / い
形容詞・形容・語幹 語尾・形容・連体

5 副詞

認定基準

自立語。活用しない。用言を修飾する

1. 「副詞」の正規表現について

「副詞」は名詞起源で、その元の意味が残っているものは漢字表記、そうでないものはかな表記とする。今後かな表記を採用するものが出てきた場合はマニュアルに追加していくこととする。

<かな表記をとるもの>

あいにく あまり あらかじめ いくら いっぱい いろいろ おそらく さらに すぐ (に) ぜひ だいたい たくさん ただ たぶん だんだん ちょうど ちょっと ともに なかなか なるほど ほとんど まず まだ まったく むしろ もし もちろん よろしく

<漢字表記をとるもの>

以前 一応 一番 一斉 因縁 お気の毒ですが 必ず 結構 最低 再度 先ほど 早速 至急 (に) 失礼ですが十分 少々 少し 既に 全然 大変 多少 例えば 直接 当然 特に 何分 何とか 何とも 何ら 後ほど 初めて 早くも 普通 別に 前もって 万が一 約

2. 古語について

以前、「とうに」は「とう／に」と分割していたが、この「と(疾)う・く」は古語であって、現代語では単独で使われないので、「とうに」と一語にする。また、「即座に」も「即座(普通名詞)／に」と分割していたが、「即座」には普通名詞としての用法がないので、「即座に」で一語とする。

- 即座に やってきた。
副詞

3. 「こう」「そう」「ああ」「どう」について

「こう」「そう」「ああ」「どう」などに「して(も)」「やって(も)」が後続するもので、本来の意味を失っているものは副詞とする。

- こうして 座っていると体が楽だ。
副詞

○ ここは こうして ください → こう / し / て
副詞 本動 接助

- どうして来なかったのですか。
副詞
- 会議は どうしても 成功させなければならない。
副詞

4. 複合副詞について

結合が密で分割しても意味のない表現は全体で副詞とする。

複合副詞一覧

(例)

いくら何でも いざという時 生まれながら うやむやのうちに おおよそのところ 国を挙げて 心ゆくまで ご多分にもれず 事と次第によっては どうかすると 取るものも取りあえず 耳をそろえて もう少し ものの見事に 念のため もうすぐ 案に相違して

あらかじめ複合副詞を列挙するのはむずかしい。迷う場合は、『大辞林』の連語欄を参照すること。また、新たに複合副詞が出現した場合は、『マニュアル』に追加する。

*注

複合副詞を分割する場合

- 駅はもうすぐそこだ →

もう	／	すぐ
副詞		副詞

「そこまで」は、文脈によって『副詞』の場合と『代名詞+格助詞』の場合がある。

- いくらなんでも そこまで やることはないだろう。
副詞

- そこまで行くには一時間かかります →

そこ	／	まで
代名		格助

5. 特有な表現

会話に特有な言い回しで、「すみませんが」「恐れ入りますが」「失礼ですが」のように、文頭にきて文全体を修飾する表現がある。これらは、本来の意味をとどめているものも失っているものもあるが、すべて副詞として一語登録する。

- すみませんが、登録料を至急お支払下さい。
- 恐れ入りますが、田中先生お願いします。
- 失礼ですが、登録料はもうお支払でしょうか。
- 申し訳ありませんが、登録はもう締切ました。

*注

「いろいろ」のように、単独で連用修飾する場合は『副詞』とする。従来は『普通名詞』としていた。

- いろいろ アレンジしてさしあげるとか。
副詞

6. 「と」のつく副詞

副詞に接続する「と」は格助詞である

- どんどんと →

どんどん	/	と
副詞		格助
- ほのぼのと →

ほのぼの	/	と
副詞		格助
- たんたんと →

たんたん	/	と
形名		助動

7. 「みんな」の見分け方

人を指す時は代名詞で、人以外の物をさす時は副詞とする。

- この部屋のもの みんな あげる → 副詞 (人以外のものを指す時)
- 朝の6時に みんな 集合した → 代名 (人を指す時)

8. 「この、あの、どの、その」のつく語について

格助詞を伴わずに副詞として用いる場合と名詞として用いる場合がある。

- このまま 仕事を続ける。
副詞
- このまま で結構です。
名詞
- この間 お尋ねした件ですが。
副詞
- この間 のことなんですが。
名詞

例) この度 この先 この際

9. 『大辞林』にエントリーされていないものについて

用言を修飾し、副詞以外に該当する品詞のないものは、大辞林にエントリーされていなくても「副詞」とする。

- できるだけ、最善を尽くします。
副詞

- 次々に 手続きを取る。
副詞
- 次々と やってくる。
副詞
- 次々 訪れた。
副詞
- 全部、処分しておきます。
副詞
- 絶対に 行こうと思う。
副詞

6 連体詞

認定基準

自立語。活用しない。単独で連体修飾語としてだけ用いられる。

正規表現は原則としてひらがなとする。

例外：大きな、小さな、当初の、当

(例) この／その／あの／どの、こんな／そんな／あんな／どんな、大きな、小さな、あらゆる、いわゆる、たいした、ある、わが、とんだ、とう [当]、だいの

1. 「この、どの、あの、その」のつく語について

『大辞林』では「このような」「どのような」で『形容動詞・語幹』としているが、これも「…はこのようだ」「…はどのようですか」とはあまり言わない。そこで、長単位で『連体詞』とする。

- このような ケースでは
連体詞
- どのようなご用件でしょうか。
連体詞

*注

したがって、「このように」「どのように」は全体で『副詞』となる。また、「このくらい」「どのくらい」も全体で『副詞』とする。

- このように してください。
副詞
- どのくらい かかりますか。
副詞

2. 「こう、そう、ああ、どう」について

「こう、そう、ああ、どう」に「いう、いった、した」などがつくものは、従来は分割していたが、すべて一語で『連体詞』とするように改める。

- こうした 親切が時にはあだになる。
連体詞
- ほかには どういう 事が
連体詞
- ほかには どういった 事が
連体詞

3. 「大きな」について

「大きな」は文語形容動詞「大きなり」の連体形「大きな」の転成語で連体詞である。同じようなものとして「小さな」がある。

- 大きな 山場を迎える → 連体詞

7 接続詞

認定基準

自立語。活用しない。主語・述語・修飾語のどれにもならない文と文、句と句、語と語をつなぐ。

正規表現は原則としてひらがなとする。

例外: 実は

1. 「だ」「です」が文頭にきて全体として接続詞的な働きをする表現は、一語で「接続詞」とする。これは丁寧体でも同じ。

- 値段は安い。 だけども、品質が良くない。
接続詞
- 彼にはアリバイがある。 だとすると、犯人は誰だろう。
接続詞
- 応募者が千人います。 ですけれども、採用人数は十人です。
接続詞
- 賛成多数です。 でございますから、本件は可決されました。
接続詞
- 資格は問いません。 ですからね、どなたでも参加できます。
接続詞

2. 「こう」「そう(そ)」に関しても、以下の形で文頭に現れるものは「接続詞」とする。

- こうして、彼は大統領になった。
接続詞
- そしたら、こうしましょう。
接続詞
- そうしたらね(そうしましたらね)、こうしましょう。
接続詞

3. 引用の助詞「と」を含むもので、文頭にきて接続詞の働きをするものがある。これも全体を一語として「接続詞」とする。

- というのは、会議で発表したいのです。
接続詞
- なぜかといますと、ホテルの予約がとれなかったのです。
接続詞
- だからといって、割引はできません。
接続詞

8 感動詞

認定基準

自立語。活用しない。主語・述語にならない。感動・呼びかけ・応答・挨拶を表し、独立性がある。

正規表現は原則としてひらがなとする。

例外：分かりました、申し訳ありません

1. 「そうですねえ」のような表現が、本来の意味を失って感動詞として用いられることがある。

- そうですねえ、明日なら何とかあります。
感動詞

○ はい、そうですねえ。 → そう / で / す / ねえ
副詞 助動 語尾 終助

2. 感動詞に助動詞・補助動詞や終助詞がついたものも、一つで『感動詞』とする。

- ありがとうございます。
- ごめんね。
- いらっしゃいませ。
- すみませんでした。
- お待たせいたしました、JTBです。
感動詞
- 失礼いたしました。それは、間違いです。
感動詞
- なんていうんでしょう、壮大な景色ですね。
感動詞
- よろしく お願いします。
感動詞
- かしくまりました。

9 間投詞

認定基準

自立語。活用しない。主語・述語にならない。言いよどむ場合などに、文の中に挿入されて用いられる。間投詞を取り除いても文の文法性および意味には影響しない。

(例) あ、あー、あの一、えー、えっと、えーっと、その一、ちょっと、で、まあ

1. [] 内の言葉は、一つで間投詞とする。又、[] 外に間投詞とラベルづけする物はない。

● [えーとですね] → えーとですね
間投詞

● [ほうほう] → ほうほう
間投詞

2. 読点がある時は切る

● [はい、はい] → はい / 、 / はい
間投詞 記号 間投詞

3. 一つの品詞の中に間投詞が含まれる物について
データで一品詞の中に間投詞を含める。
読み、正規表現では、間投詞の情報は消える。

● 自動翻訳電話 [えー] 研究所 ですか。 →
自動翻訳電話 [えー] 研究所 じどうほんやくでんわけんきゅうじょ 自動翻訳電話研究所
固名

10 助動詞

認定基準

付属語。活用する。用言にそえられる。

1. 本動詞と同様、原則として語幹と活用語尾に分割する

- 送らせる →

せ	せ	せ	助動詞・一段・語幹
る	る	る	語尾・一段・終止
- 送らなければ →

な	な	な	助動・形容・語幹
けれ	けれ	い	語尾・形容・假定

2. ムードを表す助動詞について

文末のムードを表す助動詞、補助動詞は分割せずに全体を一語とし『助動詞』とする。許可・禁止・当為・提案・意志・概言などの意味がある。

(a) 許可

- 送ってもいい →

てもい	/	い
助動・形容・語幹		語尾・形容・終止

(b) 禁止

- 送ってはいけない →

てはいけな	/	い
助動・形容・語幹		語尾・形容・終止
- 送ってはいけません →

てはいけません		
助動・特殊・終止		
- 送ってはだめだ →

てはだめだ		
助動・形動・終止		

(c) 当為

- 送らなければならない →

なければならない	/	い
助動・形容・語幹		語尾・形容・終止
- 送らなければならない →

なければならない		
助動・特殊・終止		
- 送らなければだめだ →

なければだめだ		
助動・形動・終止		
- 送らなければだめです →

なければだめで	/	す
助動・特殊・語幹		語尾・特殊・終止

(d) 提案

- 送ればいい →

ばい	/	い
助動・形容・語幹		語尾・形容・終止

(e) 意志

- 送るつもりです →

つもりで	/	す
助動・特殊・語幹		語尾・特殊・終止

(f) 概言

- 送る かもしれない → かもしれな / い
助動・形容・語幹 語尾・形容・終止
- 送る かもしれません → かもしれません
助動・特殊・終止

(g) 様相

- 送った ところだ → ところだ
助動・形動・終止

* 長単位の助動詞一覧

(a) 許可

てもよろしい、たっている、てもかまわない、てもかまいません、て(も)さしつかえない、て(も)さしつかえありません、て(も)けっこうだ、て(も)けっこうです

(b) 禁止

てはならない、てはなりません、てはだめです、たらだめだ、たらだめです、ないでください、てはいけない

(c) 当為

なければいけない、なければいけません、なくてはいけない、なくてはいけません、なくてはならない、なくてはなりません、ねばならない、ねばなりません、ないといけない、ないといけません、なくてはだめだ、なくてはだめです、べきだ、べきです、ざるをえない、ざるをえません、よりほか(は)ない、よりほかはありません、ものだ、ものです、ことだ、ことです、ほうがいい、わけにはいかない、わけにはいきません、にはおよばない、にはおよびません

(d) 提案

ばよい、といい、とよい、たらい、たらよい、ばいい

(e) 概言

かもわからない、かもわかりません、にちがいない、にちがいありません、はずだ、はずです、とのことだ、とのことです、はずがない、はずがありません

(f) 様相

ところだ、ところでは、ばかりだ、ばかりです

3. 特殊な活用

- 見つけ なきゃ いけない → な な な 助動・形容・語幹
きゃ きゃ い 語尾・形容・仮定
- とら ない でほしい → な / い
助動・形容・語幹 語尾・形容・連用
- 何もお構いいたしませんで すみません → ん / で
助動・特殊・連用 接助

4. 助動詞「ない」のつくもの

大辞林中に見出し語もしくは派生語としてエントリーされているものは以下のように切る。

- いけない → いけ / な / い
 本動 助動 語尾

5. 「で」の品詞の見分け方

(a) 接続助詞の「で」

この「で」は「ある、いる、おく」などを伴い、「て」に等しい動詞の音便に接続する。

- 鳥が飛ん でいく
 接助

(b) 格助の「で」

名詞または名詞に準ずる語がつくもので、助動詞「で」でないもの。これは英語でいえば、前置詞に言い換えられる場合が多い。

- バス で通学する。
 格助 (go to school by bus)

(c) 助動詞の「で」

i. 「である、でない、でございます」の「で」

- そう でなければホテル代だけ で結構です。 →

で	で	だ	助動・形動・連用
で	で	で	格助
- 会議に出席する訳 ではありません
 助動・形動・連用

ii. 助動詞（中止法）の「で」

これは「です、だ」に言い換えて文がおかしくならない。また、そのあとにこれと対応する「です、だ」があることが多く、ない時も、少し編集すれば対応した形に直すことができる。

- 各々ダブル で、期間は8月1日から7日までです。
 助動・形動・連用
- 料金は1万5千円 で、料理は和食です
 助動・形動・連用

6. 助動詞「た、だ」の仮定形

助動詞「た、だ」の仮定形「たら、なら」は次のように考える。

(a) 「たら」

「た」の表す過去の意味が仮定形にはないので「た」の活用から「たら」を削り、接続助詞としてのみ認める。

- 遊園地に行っ たら、休みだった
 接助

(b) 「なら」

活用語の後ろにくる「なら」は接続助詞、それ以外は助動詞「だ」の仮定形とする。

- 言語学の本 なら ここに^よあるよ
助動・形動・假定
- きれいなら → きれい / なら
形容名詞 助動・形動・假定
(「だ」と置き換えられる)
- できるなら → でき / る / なら
本動 語尾 接助
(「だ」と置き換えられない)

7. 口語によって変化した助動詞は正規表現で原形に戻す

- 論文を書かしてみる。 → し し せ
助動・一段・語幹

8. 文語の助動詞について
コメントで「文語」と入れる

- 落胆すべき → 落胆 / す / べき
サ名 [文]・補動・サ変・終止 [文]・助動

9. 助動詞「だ」について

助動詞「だ」の連体形は存在しない。下記のように過去の意味を持ち動詞・五段・連用形の音便形に接続するものは、助動詞「た」である。

- 日本の舞台を踏んだので → だ だ た
助動・特殊・連体

10. 助動詞「じゃ」について

助動詞「じゃ」は「で（助動詞）」と「は（係助詞）」の融合形である。
活用に変化が見られないので活用の種類は「無変化」となる。

- 宿泊 じゃないんです。 → じゃ じゃ じゃ
助動・無変化・連用

11 助詞

認定基準

付属語。活用しない。語と語の関係を示す。

格助詞、準体助詞、係助詞、副助詞、並立助詞、接続助詞、終助詞、引用助詞、連体助詞から構成されている。

11.1 格助詞

名詞及び名詞句に後接して、それが他の語とどういう関係にあるかを示す。

正規表現は原則として、ひらがなとする

例外：に関して、に対して、に際して、に当たって、と一緒に、と比べて、を通して、を通じて

(例) が、を、に、と、って、で、から、より、まで、へ、の、にて、じゃ

● 赤ちゃんが泣く。

● ペンで書く。

1. 複合格助詞一覧

として、についで、につき、において、にとって、をもって、に関して、に対して、によって、により、をおいて、に当たって、に際して、にわたって、にかけて、を通して、を通じて、と共に、と一緒に、と比べて、に比べて、のために、にしろ、にせよ、でもって、をもって、をして

2. 複合格助詞（丁寧体）一覧

としまして、につきまして、におきまして、にとりまして、をもちまして、に関しまして、に対しまして、によりまして、をおきまして、に当たりまして、に際しまして、にわたります、にかけて、を通しまして、を通じまして、と比べまして

*注

以上の他に、新たに『格助詞』としたい連語が出現したときは、そのつど『マニュアル』に追加する。

11.2 準体助詞

述語句や連体句を名詞化する働きを持つ「の」「ん」は準体助詞とする。代名詞に置き換えても意味がとおる。

(例) の、ん

- 僕のはこれだ。
- これは僕のだ。
- きれいなのを下さい。
- 光っているのはなんだろう。
- 困っているというのは泣き言にすぎない。
- これ のいいところは体に害がないことです。
格助

11.3 係助詞

種々の語に後接して、それが文及び文章中で主題として働くことを示す。

(例) は、も、って、ったら

- 私 は 仕事が好きです。
係助詞

1. 口語的表現で変化したものは正規表現で正しい形に直す。

- できやせんかな → やや は 係助詞

2. 連体助詞の「の」が見つからない場合

「ならではの…」 「いたれりつくせりの…」をそれぞれ「連体助詞」「普通名詞+の」とする。しかし、「の」が見つからない場合もある。その場合は「ならでは」の「は」の品詞を採用して「係助詞」とする。

- 大阪 ならでは ですね。
係助詞

11.4 副助詞

種々の語に後接して、様々の補助的な意味を添え、主として連用修飾語を作る。

(例) 以下に列挙するもののみを認める。

こそ、さえ、すら、だって、ばかり、きり、だけ、のみ、ほど、くらい(ぐらい)、ずっと、まで、でも、しか、ばかり、など、とう、なんて、なり、やら、か、なんか、しも、ごと、たりとも

(名詞または副詞に付加される場合。e. g. だれ/か、なぜ/か)

- 彼はわがままをきいてくれた のみか、見送りにまで来てくれた。 →

のみ	/	か
副助		副助
- 鮎原とずえはサーブをうけた ばかりか、アタックまできめた。 →

ばかり	/	か
副助		副助
- これ ぞ
副助

1. 大辞林にエントリーされていないものについて。

(a) 「ごと / (に)」

『大辞林』にエントリーされていないが、「ごと」でも「ごとに」の形でも使われることから、「ごと」と「に」に切り分けた。

- 広告を刷る ごとに追加料金をいただく。 →

ごと	/	に
副助		格助
- 彼は朝 ごと、その大学へ出かけた。
副助
- りんごを皮 ごと食べる。
接尾

(b) 「でも」

「でも」は『大辞林』にエントリーされていないが、一語で副助とする。

- いまから でも大丈夫だと思います。
副助
- あれでもない、これでもない。 →

で	/	も	/	で	/	も
助動		係助詞		助動		係助

(である/でないの「で」)

11.5 並立助詞

種々の語に後接して、対等の名詞句・述語句を作る。

例) 以下に列挙するもののみを認める。

と、や、やら、なり、たり(だり)、の、たの(だの)、とか

- 喜んだ の、喜ばない の。
並助 並助
- 日本語 と 英語 とはですね
並助 並助
- 友達 と 僕 と 二人で泊まる
並助 並助
- 日本語 でも 英語で でも 読ん だり 聴い たり できます。
副助 副助 並助 並助

11.6 接続助詞

活用する語に付いて、その語と後にくる語との関係を示す。

(例)

ば、たら、なら、ものなら(もんなら)、から、て(で)、と、なり、ので、もので(もんで)、のに、ても(でも)、とも、たつて(だつて)、ところで、けれど(も)、けど(も)、が、ものの(もんの、ものを、ところが、どころか、し、ながら、つつ、たり(だり)、ちゃ、ところ、って。

1. いくつかの語で構成される句が、全体として接続助詞のような働きをすることがある。このような表現は、全体を一語として『接続助詞』とする。

(a) 時間的關係

- 家に帰る やいなや
- 時がたつ につれて

(b) 順接条件

- もしその説が正しい とすれば
- 知らなかった ものですから

(c) 逆接条件

- 反対があった にもかかわらず
- たとえ知っていた としても

2. 「じゃ」について

融合形「では」が変化したもの

- いくら金をためても死ん じゃ 何もならない。 → 接助

3. 連語の接続助詞一覧

新たに『接続助詞』としたい連語が出現したときは、そのつど『マニュアル』に追加する。

(a) 時間的關係

とたんに、あげく(に)、ところ(が)、まま(で)、にしたがい、にしたがって

(b) 順接条件

とすると、としたら、ものなら、もので、ものですから、だけに、だけあって、せいで、おかげで、がゆえに

- 人の心は変わりやすい がゆえに～

(c) 逆接条件

としても、としたって、といっても、ところで、くせに、わりに、どころか、のに

11.7 終助詞

文の終わりに位置して、話し手の気持ちを表す。

(例) 以下に列挙するもののみを認める。

か (用言に付加される場合)、やら、な、なあ、ぞ、とも、よ、や、わ、もの (もん)、こと、ぜ、かしら、っけ、ものか (もんか)、ね、ねえ、さ、よ、のじゃん、もの、い。

*注

ただし、「の」は「どこから来たの」のように単独で表れる場合のみ終助詞とする。「のだ」「のです」「のか」という連鎖の中では準体助詞とする

- 元気 かい → か / い
終助 終助
- 負ける ものか。 → 終助
- お昼です もの ね。
終助 終助

11.8 連体助詞

格助詞から独立したもの。連体修飾する。

(例)

の、における、に関する、による、に対する、にわたる、という、といった、としての、
についての、にとつての、に当たつての、に際しての、のための、つていう

1. 属格を表す「の」の連体助詞について
主格を表す「の」(格助詞)と区別する。

- 太郎 の 電話 → 連体助詞
- 太郎 の 書いた手紙 → 格助詞
- 大阪 ならではの 言葉使い → 連体助詞

11.9 引用助詞

引用している時に用いる。

(例) と、って、とか。

- 出席したいって言っていました。 → 引用助詞
- 鈴木さんはロンドンにいるとか聞いています。 → 引用助詞

12 接頭辞

認定基準

他の基本となる構成要素に前接して構成する造語成分

(例) おー、ごー [御]、まー [真]、新ー、大ー、総ー、不ー、無ー、とりー [取]、ひきー [引]

1. {お、ご} のような接頭辞は辞書にひとまとまりでエントリーしていても切って意味がとおるものは切っている。

● お金 → お / 金
 接頭 / 普名

● 不明瞭な点 → 不 / 明瞭 / な
 接頭 / 形名 / 助動

2. 切ると意味がなくなるものは、一つで名詞とする。

● 小雨が降ってきた
 名詞

13 接尾辞

認定基準

他の基本となる構成要素に後接して単語を構成する造語成分。活用する接尾辞と、活用しない接尾辞がある。活用する接尾辞には活用の種類を入れる。

1. 活用しないもの

一さま [様]、一さん、一ちゃん、一君、一氏、一殿、一たち、一ども [共]、一がた [方]、一ら [等]、一まい [枚]、一本、一冊、一匹、一番、一屋、一人、一性、一いら

- 役者さんたち →

さん	/	たち
接尾辞		接尾辞

2. 活用するもの

原則として語幹と活用語尾に分割する。

- 働きやすい →

働	/	き	/	やす	/	い
本動		語尾		接尾・形容・語幹		語尾・形容・終止
- 暑がる →

暑	/	が	/	る
形容		接尾・五段・語幹		語尾・五段・終止

3. 接尾辞がついて他の品詞を構成するもの

大辞林に見出し語もしくは、派生語でエントリーされていれば他品詞を構成するが、エントリーされていない時は切る。

がる、ばむ、らしい、っぽい、やすい [易い]、にくい [難い]

- 汗ばむ →

汗ば	/	む
本動・五段・語幹		語尾・五段・終止
- 女らしい →

女らし	/	い
形容・形容・語幹		語尾・形容・終止
- 農家らしい人々 →

農家	/	らし	/	い
普名詞		接尾辞・形容・語幹		語尾・形容・終止

4. 「箇」の正規表現について

接尾辞として使う「箇」は正規表現をひらがなとする。

- 二箇所 → 箇 か か 接尾辞

15 コメント一覧表

方言や融合形、大辞林にエントリーされていない言葉など、形態素修正システムで対応できない特殊な場合に用いる。

1. 方言が出てきた場合

- この服イカス じゃん → コメント (方言)

2. text (～)

電話会話などで、融合形が出てきた場合

- 仕事し きゃあ いけない → コメント text (なけれ／ば 助動詞／接続助詞)

3. others (～を作りました)

大辞林にエントリーが無いものについて、新たに品詞をふる場合には、コメントを入れる

- 音大 に入る。 → コメント others (名詞を作りました)

4. 文語

文語体には口語体と区別する意味で、コメントを入れる

- 話す べき だ。 → コメント (文語)

5. 形態素の残部

一品詞の中に相づちが含まれる時に用いる

- お電話いた {はい} だきたいんですが。

いた いた いただ 補動 五段 語幹

{ 記号

はい はい はい 感動詞

} 記号

だ だ いただ 補動 五段 語幹*

*「だ」のところに、コメントで「前形態素の残部」と入れる。

16 助詞の整理

16.1 助詞整理の解説

略号の意味は以下の通りである。

- [格] 格助詞
- [準] 準体助詞
- [係] 係助詞
- [副] 副助詞
- [並] 並立助詞
- [接] 接続助詞
- [終] 終助詞
- [引] 引用助詞
- [連] 連体助詞

16.2 助詞の洗いだし

〈か〉

● か

[副] {文語では係助詞} {いろいろな語につくが、多くは疑問を表わす語につく。}

- だれか来て！
- なぜか抹茶がうまい。
- のみか。
- ばかりか。
- 何週間ぐらいか。

[終] {体言および活用語の終止形につく。「だ」には疑問を表す語句のあとにきた場合にだけつく}

- それは本当でしょうか。
- そいつはあやしいんじゃないかと思う。(自問の「か」)
- どれくらいあるか教えて。

(答えが予想されるようなものは終助詞)

● が

[格] {体言または体言扱いのものにつく}

- 私が水野です。

- りんごが好きです。
- 逃げるが勝ち。

[接] {口語では活用語の終止形に、文語では連体形につく。格助詞「が」から転じたもの}

- 年はとったが、まだまだ気は若い。
- 人の心を豊かにするが故に・・・（「する」は連体形）

● かしら

[終] {自問をあらわす助詞「か」に「知らん」のついた形「かしらん」がつづまって一語化した形}

- そんなことあるのかしら。

● から

[格] {体言または体言あつかいのものにつく。下に方向性あるいは始発性を含む動詞・助動詞を伴う}

- A地点からB地点まで500Kmです。

[接] {文語では活用語の連体形に、口語では主として終止形につく}

- 明日はテストだから今日は寝ないで勉強する。
- 雨が続いたからです。

● きり

[副] {名詞「切り（=際限）」から転じたもの。「ぎり」「っきり」ともいう。きわめて口語的。体言及び活用語の連体形につく}

- あれっきり帰ってこない。

● くらい（ぐらい）

[副] {名詞「くらい（位）」から転じたもの}

- あのくらい頭のよい人はちょっといない。
- 自分でも不思議なくらい心に余裕ができました。

● けど（も）

[接] {「けれども」の意味}

- 好きだけど知らない。

● けれど（も）

[接] {活用語の終止形につく。くだけたスタイルでは「けれど」「けど」「けども」ともなる}

- お酒も飲むけれども、甘いものも好きなんです。

- こそ

[副] {文語では係助詞}

- 君こそ男の中の男だ。

- こと

[終] {事と同語源} {同僚または目下の人に向かって話すときに使う女性語}

- あら大変なこと。

〈さ〉

- さ

[終] {男性用語。主として文の終止する形につくが、述部動詞の略された形で体言あるいは体言あつかいのものにもつく} {引用をあらわす「と」「て」について慣用句的に用いられる}

- そんなの平気さ。

- さえ

[副] {「そへ(添)」が原義という。活用語の連用形および種々の語につく}

- そばにいてくれさえすればいい。

- し

[接] {活用語の終止形につく。元来、文語形容詞語尾「し」が離れて助詞になったもの}

- 頭もいいし、気だてもいい。

- しか

[副] {「ほか」の転という。体言または体言あつかいのもの、動詞の連体形、形容詞・形容動詞の連用形、格助詞などにつき、いつも打ち消しの「ない」を伴い「AしかBしかない」の形で用いられる。

- お茶しかないけどいい？

- じゃ

[接] {原因・理由を表す時に用いる}

- いくらお金をためても死んじゃ何もならない。

[格] {主格を受けるとき}

- やかましくて、ここじゃ話もできない。

[助動] {「で(は)ない」「で(は)ある」の「で(は)」に置き換える事ができる}

- わかんないんじゃないかって、…

- ずつ

[副] {分量を表す語につく}

- ひとり一個ずつですよ。

- すら

[副] {種々の語につく}

- 仕切りすらないようなすごい便所が中国にはよくある。

- ぜ

[終] {終助詞「ぞ」に終助詞「え」のついた「ぞえ」が縮まってできた形。親しい間柄でのくだけた表現に用いられる男性用語。活用語の終止形につく}

- 心が寒いぜ。

- ぞ

[終] {文語では体言あるいは活用語の連体形などにつく} {口語では男性用語。活用語の終止形につく}

- おばけだぞ。

〈た〉

- だけ

[副] {名詞「たけ(丈)」から転じたもの。つく語によって「たけ」「ったけ」とも。体言、活用語の連体形、および一部の格助詞につく}

- あなただけよ。

- たって(だって)

[接] {完了の助動詞「た」に接続助詞「とて」のついた形「たとて」の転} {活用語の連用形につく。ガ行イ音便、ン音便の形には「だって」の形で行つく} {「・・・と言ったって」の略された形。「ったって」の形をとることが多い。引用された語句や文につく}

- いくら謝ったって許してあげない。

- 死んだって忘れない。

- だって

[副] {指定の助動詞「だ」の終止形に副助詞「とて」のついた形「だとして」が音声的に変化した形。体言あるいは体言あつかいのものにつく}

- 先生だって人間なんだからいろいろあるわよ。

● たの (だの)

[並] (だの) {指定の助動詞「だ」に助詞「の」がついた形。体言あるいは体言あつかいされたものにつく。普通には「AだのBだの」の形で用いるが、「など」がつく場合には最後のものは略して用いない}

- やれ本だの服だのお金がいくらあっても足りやしない。

● たら

[接] {過去の助動詞「た」の仮定形}

- 一目みたらすぐ分かった。

● たり (だり)

{完了の助動詞「たり」の助詞化したもの。活用語の連用形につく。
が行イ音便あるいはン音便の動詞には「だり」の形につく}

[並]

- お父さん、行ったり来たりさっきから何やってるんですか。

[接]

- いたずらしたりしちゃうやよ。

● っけ

[終]

- 彼の名前は言ったっけ。

● ったら

[係] {格助詞「と」に、「言う」の連用形「いっ」及び完了の助動詞「た」の仮定形「たら」がついた「といたら」が変化したもの。人あるいは人間生活になじんでいる動物を呼ぶ名詞につく}

- お母さんったらいやあねえ。

● つつ

[接] {活用語の連用形につく}

- とかなんとかいいつつしっかり食べてるじゃない。

● って

[格] {撥音のあとでは「て」となることもある。くだけたスタイルの話ことば}

- それはあなたを大事にするってことよ。

[引] {格助詞から引用の意味を持つものが独立したもの}

- 出席したいって言っていました。

[係]

- 別れた後ってそうらしいわ。
- 男ってそうらしいわ。
- て (で)

[接] {完了の助動詞「つ」の連用形が転義し助詞化したものという。活用語の連用形につく。動詞の否定形および形容詞には、「って」の形でつくこともある。また、ガ行イ音便および撥音便の動詞には「で」の形でつく}

- 赤ちゃんの手はちっちゃくってもみじのよう。
- 罪を憎んで人を憎まず。

- で

[格] {格助詞「にて」が変化したもの。体言または体言あつかいのものにつく}

- 私はこれで会社をやめました。
- それで結構です。

- ても (でも)

[接] {接続助詞「て」に係助詞「も」がついたもの。動詞・形容詞の連用形につく。イ音便の一部や撥音便に続く時は「でも」となる。形容詞につく時は「っても」となることがある}

- いくら言ってもきかないんだから。
- 死んでも死にきれない。
- 私としても。
- バスを乗り継いで行ったとしても、3時間はかかる。

- でも

[副] {格助詞「で」に係助詞「も」が連なって一語となったもの。体言または体言あつかいのもの、および格助詞につく}

- 子供でも知っている。
- どこへでも行く。

- かまきり以外の何物でもない。

- と

[格] {二人の動作主、あるいは二つの対象が対となってはじめて成立する動作、あるいは関係・性状を表す用言を伴い} 対等の関係にある対の一方をあげるのに用いる。

- 本物が偽物と入れ換えられたらしい。
- 猫と遊んでた。

[引] {「言う」「思う」「見る」「決める」「呼ぶ」等ある内容を表出あるいは認識する動詞を伴い、内容を引用する。}

- ドリームランドは楽しいと聞いた。

[並] {体言または体言あつかいのものにつく}

- 私の好きなのは、あんパンとクリームパンと・・・

[接] {多くは活用語の終止形につく。ただし、完了の助動詞「た」にはつかない} * {推量の助動詞「う」「まい」の連体形につけて、仮定条件を表す句をつくり} その仮定条件に拘束されることなくあることが遂行されるであろうことを強く表すのに用いる。

- 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。
- 銀行振り込みにしていただけるとありがたいですが。

- という

[連] 体言に連なる時

- ねこという名前の犬

- とう (等)

[副]

- ご質問とうございますか。

- とか

[並] {格助詞「と」に係助詞「か」がついて一語化したもの。種々の語につく}

- 京都とか奈良とかにいったみたい。

[引] {引用の意味を表す}

- 鈴木さんはロンドンにいますとか聞いてます。

- ところが

[接] {活用語の終止形につく}

* 「が」は略されて「ところが」だけで用いることもある。

- 彼のためにと忠告したところが、かえって恨まれてしまった。
- 御維新の騒ぎで殿様が甲府の町奉行になるところがだめになった話やら、・・・
- お伺いしましたところ、ご案内して下さるとか。

● どころか

[接] {活用の終止形、あるいは、述部動詞の略された形で体言および体言あつかいの語につく}

- きらいどころか大好きだ。

● ところで

[接] {完了の助動詞「た」の終止形につく}

- 君がいったところでどうにもなるまい。

○ 人数がはっきりした ところで、また連絡します。→ ところ/で (普名/格助)

● とも

[接] {接続助詞「と」に係助詞「も」がついてできたもの。文語・口語いずれも動詞、動詞型活用の助動詞の終止形、形容詞、形容詞型活用の助動詞の連用形につく。}

- ちいさくともわが家だ。

[終]

- いいとも!

[尾]

- 今後ともよろしく。

〈な〉

● な

[終] {動詞および受身・使役の助動詞「(ら)れる」「(さ)せる」などの終止形につく}

- 泣くなよ。

● なあ

[終] 「な」 {文の終止する形につく} ときの強く詠嘆のこめられた形。

- やっぱり田舎はいいなあ。

● ながら

[接] {名詞・副詞・形容詞・形容動詞の語幹、形容詞の終止形、動詞あるいは動詞型活用の助動詞の連用形などにつく}

- ごはんを食べながら、マンガを読むのはやめなさい。
- 残念ながら出席していただけないと連絡をうけました。

● など

[副] {いろいろな語につく}

- なにか質問などございましたらどうぞ。
- これなどいかがですか。

● なら

[接] {指定の助動詞「だ」の假定形。体言およびそれに準じるものにつく。また、動詞・形容詞・助動詞（「う」「よう」「まい」「そうだ」「ようだ」を除く）の終止形にもつく。あとに接続助詞「ば」をつけた「ならば」の形で用いられるが、また、「なら」という単独の形で現れることも多い} 体言+なら（助動詞） 活用語+なら（接続助詞）

- 鳴かぬなら鳴かせてみようホトトギス

● なり

[副] {文語の指定の助動詞「なり」から転じたもの。「なりと」「など」の形でも用いられる。体言または体言あつかいのもの、および格助詞につく}

- どこへなり勝手に行くがいいさ。
- 手紙を出すなりして、連絡をとってください。

[並]

- お父さんなりお母さんなりにそう伝えといてちょうだい。

[接] {動詞あるいは助動詞の終止形につく}

- 家に帰るなりどこかに遊びに行ってしまった。

● なんて

[副] {体言、あるいは体言に相当するものにつく}

- まさか本当にくれるなんて思ってなかった。

● へ

[格] {体言または体言あつかいのものにつく}

- ニューヨークに行こう。
- 何しに来た。

● ね

[終] {文の終止形につく。}

- あなたって本当に親切ね。

● ねえ

[終] {「ね」と同じ用法}

- あと二十年若かったらねえ。

● の

[連] {属格を表す}

- 私の彼は左利き。

[格] {主格を表す}

- 桜の咲く頃。

[準] {体言、あるいは、ごくまれに体言に格助詞「の」がついた形につく。ついた形全体で体言あつかいになる} {連体形で終わる語句、あるいは連体詞につく。ついた形全体が体言あつかいになる}

- これはぼくのだ。

[並] {体言または体言あつかいのものにつく}

- 喜んだの、喜ばないの。

[終] {準体助詞「の」から転じたもの。活用語の連体形につく。主に女性あるいは子供の用いる語}

- どこから来たの。

(このように単独で表われる場合のみ終助詞。「東京から来たのか。」「大阪から来たんです。」のように「のか」「のです」「のだ」という連鎖の中では準体助詞である。)

● ので

[接] {準体助詞「の」に、指定の助動詞「だ」の連用形「で」がついて一語化したもの。また、格助詞「で」がついたものとも。活用語の連体形で終わる文につく。「から」に置き換えられる}

- 私は足が遅いので綱引きがよいです。

○ 彼はどこかに人と親しみ難いところを持っているにちがいない。それは親しい友達が少ないので分かる。 → の/で (準助/格助)

● のに

〔接〕 {文語の接続助詞「に」の上に準体助詞「の」が挿入されてできた形か。活用語の連体形で終わる文に、また形容動詞、指定の助動詞「だ」の終止形で終わる文にもつく}

- せっかく行ったのにお休みだった。

- のみ

〔副〕 {「の身」が原義という。種々の語につく}

- 問題はそれのみではない。

〈は〉

- は

〔係〕 {発音ワ。いろいろな語あるいは活用語の連用形につく}

- 本日は晴天なり。

- ば

〔接〕 {口語では仮定形につく} {文語では未然形の時と已然形の時がある}

- もし生まれ変わったならば何になりたいですか。

- ばかり

〔副〕 {動詞「はかる」の名詞形「はかり」からの転。口語のくだけた言い方では、用法によつては、「ばっかり」「ばかり」「ばかり」とも。種々の語につく}

- あの犬は空ばかり見ている。
- 私は今年入学したばかりです。

- へ

〔格〕 {発音はエ。体言について連用修飾語をつくる。格助詞「の」が下にくると、「・・・へ」全体が体言あつかいになり、「・・・への」の形で体言を修飾する事がある}

- まっすぐ行って右へまがれば会議場ですよ。

- ほど

〔副〕 {「程度」の意の名詞が助詞化したもの。助詞化してもきわめて名詞的。体言および活用語の連体形につく}

- 見れば見るほど似ている。
- 二週間ほどたったある日のこと。

〈ま〉

- まで

[格] {体言、あるいは、「時」という語が省略された形で動詞の連体形につく}

- 大阪までどのくらいかかりますか。

[副] {主として体言につく。また、「ほど」が省略された形で活用語の連体形につく}

- あなたまでそんなこと言うなんて。
- そこまで考えない。
- デラックスまでは、行きませんが。

● も

[係] {いろいろな語や活用形につく}

- わしもそう思う。
- もの(もん)

[終] {形容名詞「もの」が文末に用いられて助詞化したもの。主として女性の用語。活用語の終止形につく。「もん」ともなる}

- 涙がでちゃう、だって女の子だもん。

● ものか(もんか)

[終] {形容名詞「もの」に感動を表す助詞「か」のついた形が文末に用いられて助詞化したもの。活用語の連体形につく}

- 負けるもんか。

● もので(もんで)

[接] {形容名詞「もの」に格助詞「で」がついて一語に助詞化したもの。本来は活用語の連体形につく}

- なにしろ大阪は初めてなものでよく分かりません。

● ものなら(もんなら)

[接] {形容名詞「もの」に指定の助動詞「だ」の仮定形「なら」がついて一語の助詞化したもの} {原則として可能を表す動詞あるいは助動詞の連体形につく} {意志・推量を表す助動詞「う」「よう」の連体形につく}

- できるものならもう一度チャレンジしたいと思っているのですが。

● ものの(もんの)

[接] {形容名詞「もの」に助詞「の」がついて一語の助詞化したもの。活用語の連体形につく}

- やりますとは言ってみたものの、あまり自信はないんだ。

● ものを

[接] {形容名詞「もの」に助詞「を」がついて一語化したもの。活用語の連体形につく}

- そのまま逃げ出せばよいものを、立ち向かって行くからこういう事になるんだよ。

〈や〉

● や

[並] {体言または準体助詞「の」につく}

- ここからだ山や川が見渡せてとても気持ちがいい。

[終] 口語 {体言につく} {勧誘を表す助動詞「う」の終止形にもつく} {動詞の否定形、あるいは感情を表す形容詞につく} 文語 {体言あるいは活用語の終止形、命令形につく}

- ばあさんや、みかんを一つどうぞだい。

● やら

[副] {終助詞の用法から転じたもの。種々の語につく}

- どこへやら行ってしまった。

[並] {名詞、活用語の連体形、準体助詞「の」などにつく}

- 赤いのやら青いのやらたくさんある。

[終] {「にやあらん」の形が「やらん」「やろう」と転じ、さらにつづまったもの}

- 空の雲どこまで流れて行くのやら。

● よ

[終] 文語 {体言につく} 口語 {活用語には終止形・命令形につく}

- もしもしかめよ、かめさんよ。
- その言葉を忘れるなよ。

● より

[格] {体言または体言あつかいのものにつく} {活用語の連体形につく。口語の文章語では「より早く」の形で用いられる}

- 青より白のほうが好き。

〈わ〉

● わ

[終] {文末に用いられた係助詞「は」から転じたもの。歴史的かな使いは「は」とも。活用語の終止形につく}

- そんなことだと思ったわ。

● を

[格] {体言または体言あつかいのものにつく}

- 私を信じなさい。

17 助詞の接続表

	格助詞	準体助詞	係助詞	副助詞	並立助詞	接続助詞	終助詞	連体助詞	引用助詞
体言 体言扱 いの物	が から で って と に の へ まで より を でもって をもって にて において における について にとって	の	ったら って は も	か ぎり くらい (ぐらい) こそ さえ しか ずつ すら だけ だって でも とう など なり なんて のみ ばかり ほど まで やら ごと なんか	たの (だの) と とか の や やら	どころか なら じゃ	か かしら わ ね ねえ さ や よ	の という における に関する による に対する にわたる といった としての についての にとつての のための	と って とか
活用語 未然形									
活用語 連用形	に		は も	さえ しか (形容詞に)	たり (だり)	たって (だって) たら たり (だり) つつ て (で) ても (でも) とも (形容詞に) ながら (動詞に)			

	格助詞	準体助詞	係助詞	副助詞	並列助詞	接続助詞	終助詞	連体助詞	引用助詞
活用語 終止形	と って が として にしろ にせよ に			か やら なんて	とか なり	が から けど、(も) けれど (も) し ところが どころか ところで とも (動詞に) ながら (形容詞に) なら なり のに じゃ	こと ね ねえ させ つけ とも な なあ もの (もん) や よ やら わ か かしら		と って とか
活用語 連体形	まで より	の		きり くらい (くらい) しか (動詞に) だけ のみ ばかり ほど まで ごと	やら	ので のに もので (もんで) ものなら (もんなら) ものの (もんの) ものを	の ものか (もんか)		
活用語 仮定形						ば			
活用語 命令形	と って				とか		な (動詞特殊に) よ		と とか

18 活用表

18.1 動詞活用表

活用種類	例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
五段活用	書く	書	か こ	き い	く	く	け	け
一段活用	受け／る	受	φ	φ	る	る	れ	ろ よ
一段活用	起き／る	起き	φ	φ	る	る	れ	ろ よ
カ行 変格活用	来る	φ	こ	き	くる	くる	くれ	こい
サ行 変格活用	する	φ	し せ さ	し	する	する	すれ	しろ せよ
特殊	なさ／る	なさ	ら ろ	い・っ り	る	る	れ	い
特殊	いらっ しゃ／る	いらっしゃ	ら ろ	い・っ り	る	る	れ	い
特殊	おっしゃ／る	おっしゃ	ら ろ	い・っ り	る	る	れ	い
特殊	くだささ／る	くださ	ら・ろ	い・っ	る	る	れ	い
特殊	ございま／す	ございま	せ しよ	し	す	す	すれ	せし
特殊	くれ／る	くれ	φ	φ	る	る	れ	φ
文語サ変	す	φ	せ	し	す	する	すれ	せよ

18.2 形容詞活用表

活用種類	例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
形容詞	美し/い	美し	かろ	かつ く	い	い	けれ	φ
特殊	よ/い	よ よさ	かろ	かつ く	い	い	けれ	φ
特殊	な/い	な なさ	かろ	かつ く	い	い	けれ	φ

18.3 助動詞(文語)活用表

活用種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
一段型	す	φ	せ	せ	す	する	すれ	せよ	未然形
一段型	さ/す	さ	せ	せ	す	する	すれ	せよ	未然形
一段型	し/む	し	め	め	む	むる	むれ	めよ	未然形
一段型	る	φ	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	未然形
一段型	ら/る	ら	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	未然形
一段型	つ	φ	て	て	つ	つる	つれ	てよ	連用形
ナ変型	ぬ	φ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	連用形
ラ変型	た/り	た	ら	り	り	る	れ	れ	連用形
ラ変型	り	φ	ら	り	り	る	れ	れ	已然形又は 命令形(四段) 未然形(サ変)
ラ変型	け/り	け	ら	φ	り	る	れ	φ	連用形
ラ変型	め/り	め	φ	(り)	り	る	れ	φ	終止形(ラ変以外 助動詞) 連体形(ラ変・形 容詞・助動詞)
ラ変型	な/り	な	φ	(り)	り	る	れ	φ	終止形(ラ変以外 助動詞) 連体形(ラ変・形 容詞・助動詞)
ラ変型	侍/り	侍	ら	り	り	る	れ	れ	連用形
四段型	候/ふ	候	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ	連用形
サ変型	んず <むず>	んず <むず>	φ	φ	φ	る <る>	れ <れ>	φ	未然形
形容詞型	べ/し	φ	く から	く かり	し	き かる	けれ	φ	終止形(ラ変以外 助動詞) 連体形(ラ変・形 容詞・助動詞)
形容詞型	た/し	た	く から	く かり	し	き	けれ	φ	連用形
形容詞型	ご/とし	ごと	く	く	し	き	φ	φ	連体形 連体形+が 名詞+の
形容詞型	まほし	まほし	く から	く かり	φ	き かる	けれ	φ	未然形
形容詞型	まじ	まじ	く から	く かり	φ	き かる	けれ	φ	終止形(ラ変以外 助動詞) 連体形(ラ変・形 容詞・助動詞)
形用動詞型	な/り	な	ら	り に	り	る	れ	れ	名詞・連体形 助詞
形用動詞型	ごとくな/り	ごとくな	ら	り ごとくに	り	る	れ	れ	連体形 連体形+が 名詞+の
形用動詞型	た/り	た	ら	り と	り	る	れ	れ	名詞

活用種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
特殊型	ず	φ	(な) ず ざら	(に) ず ざり	ず (ざり)	ぬ ざる	ね ざれ	ざれ	未然形
特殊型	ま/し	ま	せ	φ	し	し	しか	φ	未然形
特殊型	き	φ	(せ)	φ	き	し	しか	φ	連用形
特殊型	ん<む>	φ	φ	φ	ん <む>	ん <む>	め	φ	未然形
特殊型	け/ん <け/む>	け	φ	φ	ん <む>	ん <む>	め	φ	連用形
特殊型	ら/ん <ら/む>	ら	φ	φ	ん <む>	ん <む>	め	φ	終止形（ラ変以外 ・助動詞） 連体形（ラ変・ 形容詞・助動詞）
無変化型	ら/し	ら	φ	φ	し	し (しき)	し	φ	"
無変化型	じ	φ	φ	φ	じ	(じ)	(じ)	φ	未然形

18.4 助動詞活用表

活用種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形	接続
一段型	せ／る	せ	φ	φ	る	る	れ	ろよ	五・サ 未然形
一段型	させ／る	させ	φ	φ	る	る	れ	ろよ	一・カ・サ 未然形
一段型	しめ／る	しめ	φ	φ	る	る	れ	よ	未然形
一段型	れ／る	れ	φ	φ	る	る	れ	ろよ	五・サ 未然形
一段型	られ／る	られ	φ	φ	る	る	れ	ろよ	一・カ・サ 未然形
形容詞型	な／い	な	かろ	かっく	い	い	けれ	φ	未然形
形容詞型	た／い	た	かろ	かっく	い	い	けれ	φ	連用形
形容詞型	らし／い	らし	φ	かっく	い	い	φ	φ	終止形
形容動詞型	だ	φ	だろ	だっで	だ	(な)	なら	φ	名詞・助詞 終止形
形容動詞型	そう／だ	そう	だろ	だっで	だ	な	なら	φ	連用形 形容詞語幹
形容動詞型	そう／だ	そう	φ	で	だ	な	なら	φ	終止形
形容動詞型	よう／だ	よう	だろ	だっで	だ	な	なら	φ	連体形
形容動詞型	みたい／だ	みたい	だろ	だっで	だ	な	なら	φ	連体形
特殊型	ま／す	ま	せしよ	し	す	す	φ	せし	連用形
特殊型	で／す	で	しよ	し	す	す	φ	φ	名詞・助詞 終止形
特殊型	そうで／す	そうで	しよ	し	す	(す)	φ	φ	連用形 形容詞語幹
特殊型	そうで／す	そうで	しよ	し	す	(す)	φ	φ	終止形
特殊型	ようで／す	ようで	しよ	し	す	(す)	φ	φ	連体形
特殊型	みたいで／す	みたいで	しよ	し	す	(す)	φ	φ	連体形
特殊型	た	φ	たろ	φ	た・だ	た・だ	たら	φ	連用形
特殊型	ぬ(ん)	φ	φ	ず	ぬ(ん)	ぬ(ん)	ね	φ	未然形
無変化	う	φ	φ	φ	う	う	φ	φ	未然形
無変化	よう	φ	φ	φ	よう	よう	φ	φ	未然形
無変化	まい	φ	φ	φ	まい	まい	φ	φ	終止形

謝辞

本レポートの作成にあたって議論に参加し、適切な助言を与えられた竹澤寿幸主任研究員、衛藤純司氏（日本アイアール株式会社）、高橋誠氏（株式会社東洋情報システム）、森田千帆さん（株式会社東洋情報システム）に深謝する。

参考文献

- [1] 浦谷則好・竹澤寿幸・田代敏久・江藤純司：「音声言語データベースのための日本語形態素情報と表記の体系」，ATRテクニカルレポート（TR-I T-0003），（1993. 7. 13）
- [2] 竹澤寿幸・田代敏久・保坂順子・衛藤純司：「自動翻訳電話研究所の対話データベースと音声翻訳システムASURAの音声認識用文法・構文解析用文法間の日本語形態素情報の相違点」，ATRテクニカルレポート（TR-I T-0006），（1993. 7. 29）
- [3] 篠崎直子・水野康子・小倉健太郎・吉本啓：「形態素情報利用解説書」，ATRテクニカルレポート（TR-I-0077），（1989. 3）
- [4] 松村明〔編〕：「大辞林」，三省堂，（1988. 11）